

令和2年度第7回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和3年2月18日(木) 午後3時00分～3時20分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出 席 者
- | | |
|------------------|---------|
| 紋別市長 | 宮 川 良 一 |
| 紋別市教育委員会教育長 | 堀 籠 康 行 |
| 紋別市教育委員会教育長職務代理者 | 小 林 正 男 |
| 紋別市教育委員会委員 | 上 林 善 證 |
| 紋別市教育委員会委員 | 渡 邊 孝 博 |
| 紋別市教育委員会委員 | 古 屋 真由美 |
- 4 構成員以外の出席者
- | | |
|-----------|---------|
| 総務部企画調整課長 | 竹 本 幸 孝 |
|-----------|---------|
- 5 事務局関係
- | | |
|----------|---------|
| 教育部長 | 山 崎 義 一 |
| 学務課長 | 浜 屋 武 志 |
| 学務課主幹 | 仲 条 憲 明 |
| 学務課参事 | 茂 木 洋 人 |
| 生涯学習課長 | 山 本 晃 男 |
| スポーツ振興課長 | 田 島 慎 二 |
| 学務課庶務係長 | 米 田 晃 |
- 6 協 議 内 容 (1) 地域部活動について

令和2年度 第7回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

○宮川市長

定刻になりましたので、令和2年度第7回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行は、私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づきまして、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項（1）であります。地域部活動について、事務局から説明をお願いします。

○茂木学務課参事

それでは、私から説明させていただきます。資料1をご覧ください。

これは、文部科学省の資料ですが、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の概要」ということで、はじめに、部活動の意義と課題について記載されております。

部活動の意義としては、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場であるとされております。課題については、現在の中学校の学習指導要領には、部活動は「教育課程外の学校教育活動」とされており、部活動の顧問の指導は、法律的には校長の命じる勤務ではなく、教員自身が自主的に行われているものとされております。これまでは、教員の献身的な勤務のもとで成り立ってきましたが、休日を含め長時間勤務の要因であることや指導経験のない教員にとっての負担などの課題があります。

紋別市では、生徒数の減少やそれに伴う教員の減少により、部活動の維持が困難になってきていることも課題であります。

このようなことから、持続可能な部活動と教員の負担軽減の両方を実現できる改革が必要であります。改革の方向性としては、文部科学省では、3つの方向性を示されており、一つ目は、「部活動は必ずしも教員が担う必要がない業務であることを踏まえ、休日に教員が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築」、二つ目は「部活動の指導を希望する教員は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築」、三つ目に「生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備」といった方向性を示しております。

具体的な方策としては、大きく二つの方策が示されており、一つ目は、「休日の部活動の段階的な地域移行」で、具体的には、休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保、さらには保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援などが挙げられます。二つ目は「合理的で効率的な部活動の推進」で、具体的には地域の実情を踏まえた合同部活動の推進、地理的な制約を解

消するためICT活用の推進、さらには、中体連等の地方大会の在り方などが挙げられます。資料2に文部科学省のスケジュールが示されており、令和5年度には全国的な取組として地域移行を進めたいとしております。

資料3をご覧ください。これらの状況を踏まえ、教育委員会の素案についてご説明させていただきます。教育委員会では、新年度、新たな取組として部活動サポーターを紋別中学校、潮見中学校に配置し、アンケート調査の実施、課題の把握や整理・調整のほか、地域人材の発掘や外部指導者の調整、学校部活動の募集事務等などの業務を行い、生徒の部活動支援のほか、教員の負担軽減などを行います。

検討・運営会議を設置し、紋別市全体で部活動を取り巻く課題や情報の共有などを行い、子ども達が持続した活動を行えるよう、お互いに意見交換等を行う場を設置します。令和3年度は、まず合同部活動の実施と地域文化活動の実施を予定しており、合同部活動は、紋別中学校、潮見中学校にある既存の部活動を合同部活動として活動できないか検討しているところであります。具体的には、女子バレー部のある紋別中学校を拠点校、野球部、女子バスケットボール部のある潮見中学校を拠点校とし、拠点校を中心に活動するものであります。また、文科系の部活動がないことから、学校部活動ではなく、茶道や琴、書道、美術などを地域の方が指導を行う地域文化活動として、活動できるよう設置を考えており、活動場所は、紋別中学校の茶道室や市民会館などの利用を考えております。また、生徒の学校間の移動等が発生することから、この合同部活動等が一定程度定着した場合には、市内の3中学校を部活動の往復時に巡回する部活動バスの運行について検討しているものであります。また、将来的には、紋別高校や近隣町村との合同部活動の実施などについても検討しております。

今後は、関係団体や学校などと協議を進め、部活動が持続的に行われるよう環境の整備を行ってまいります。

以上で、説明を終わらせていただきます。

○宮川市長

それでは、地域部活動について事務局より説明がございましたが、何かご意見等があればお願いしたいと思います。いかがですか。

○小林委員

我々のように70歳を過ぎた人は、古い考え方で、ここに書いてあるように学校の先生の自主的なサポートで、部活動をやってきて、それがなじんできて、それが立ち行かなくなってきたので、こういった考え方が出てきたと思います。これに対して反対はしませんが、必要なことは、いろいろ問題があると思います。

しかしながら、良いように考えれば、こういうシステムで部活動をする人が増えるのではないかと期待もありますので、説明があったような形で進めていただければと思います。

○宮川市長

合同部活になると、どうしても学校を代表して出場するということがなくなってしまいます。それは生徒数が少なくなって、部活動が維持できないので、しょうがないかとは思いますが、そういった部分では、母校を愛する気持ちは、どうなるのかと思います。地域を代表していくという形になるかと思いますが、やはり寂しい部分はあると思います。

実際に文科系だと、吹奏楽しかありませんよね。絵の好きな人もいるだろうし、そういった機会を地域の方で、一緒になってやっていけないかと考えております。

どうでしょうか、上林委員。

○上林委員

今、学力、体力の問題もあり、北海道は落ちてきていることがありますので、やはり、子どもたちにはなるべくスポーツに親しんでいただく機会を多くなるよう教育委員会でも考えていかなければならないと思います。いつも問題になってくるのは、人、指導者ということなので、そこを何とか知恵を出し合ってクリアしていければと思っております。

○宮川市長

体育協会や文化連盟などとの連携を取れるようにして、小学校、中学校、高等学校へと育てていけるような体制ができればと思います。

他にご意見はありますか。

○渡邊委員

やはり部活動は、学校生活とは違って、学年をまたいでコミュニケーションを取るではないですか。そういう面では、人間形成ではすごく有効なのではないかと思います。あとは、学校をまたいで一つにするというのは、先ほど市長がおっしゃったように、学校単位ではなく、地域としての役目というか、地域としての代表として、大会に出場するとか。例えば、部活動をまとめることによって、大きな部活に入れない。渚滑の子どもたちが人数の関係で野球をやりたくてもできないといった時に、合同の部活動があれば、保護者の負担は大きくなってしまいかもかもしれませんが、入ることができます。そういったことをやることによって、自分がやりたい部活動に入ることができるようになると思います。昔、自分たち

がやっていた時の部活とは違って、安全管理面が非常に厳しくなっており、指導者や専門性のある先生がいないので、外部指導者を求めていると思いますが、そういったところの拡充が課題となってくると思います。今、子どもたちが少なくなってきたり、できることもどんどん制限されてきて、できない状況になってきている。そういったところの壁を少しずつ取り去って、部活動に入ってもらおう。確かに体力面の問題もありますが、やはり、部活動で得るものは、自分の人生の中でもすごく大きいと思います。例えば、先輩とのコミュニケーションもありますし、学年後半の後輩への指導も、経験になると思います。確かに地域の負担も大きくなるかもしれませんが、そこは進めていくべきではないかと思っています。

○宮川市長

古屋さんは、いかがですか。

○古屋委員

人数が少ないから部活動ができない現状がありますので、合同部活になっていただくと部活動に入りやすいと思います。こちらの中学校には部活はないけど、そちらの中学校にあるから、その中学校に行かなければならないのではなくて、しっかりと道筋を作り、どの学校にいてもスポーツができるという仕組みは、すごく良いことだと思います。

○宮川市長

あとは、出場の条件など中体連等の問題があるのではないのでしょうか。

○茂木学務課参事

そうですね。やはり人数の条件があるので、少人数校同士で集めるなど、そういった問題があります。合同部活でいつも一緒に練習しているのに、学校単位でチームを分けられてしまうと、試合の時には、別なチームで出なければならないという問題もありますので、そういったところは、中体連等に働きかけをしていかなければならないと思います。

○上林委員

紋別に限った話ではありませんよね。

○茂木学務課参事

もちろん、全国的な問題であります。

○渡邊委員

今、紋別中学校には、野球部は無いのですか。

○宮川市長

無いですね。

○渡邊委員

紋別中学校ぐらいの規模だと、野球部はありそうなのですが。

○宮川市長

子ども達の流行もありますからね。

○渡邊委員

せっかく北海道には、プロ野球の日本ハムファイターズもありますし、野球は、割と身近な存在のような気がするのですが、これは指導者なども関係するのでしょうか。

○宮川市長

小学校から中学校に上がってくるので、小学校の時点で少年団の人数が少ないと、中学校でチームを作れないというのがありますよね。ファイターズの野球教室もやっていますが、野球をやる子どもは少なくなってきました。紋別高校でも力を入れておりますが、底辺が育ってこないと思います。

○渡邊委員

野球が一番身近なスポーツで、やっていた感じがしますが、身近なところで触れられないと、ボールも投げられない。すごく寂しいというか、身近なものも身近でなくなっているの、何か考えなければならないと思います。

○宮川市長

先ほど言ったように、先輩、後輩の関係は、一生続く関係でもありますし、それから指導者の先生というのは、担任の先生以上にずっと付き合いがありますので、そういった部分では、人間関係といいますか、コミュニケーションを取る訓練の場として重要だと思います。

○上林委員

紋別にいる若い方に、私はこういう指導者になりたいといった時に、指導者にもいろいろ資格は必要なので、もしそういう人がいるのであれば、指導者になるための助成金なども、これから考えていく必要があるのではないかと考えます。どんどん出てきてもらうような環境も作らなければならないのかもしれないかもしれませんね。

○宮川市長

職場などでも、こういったところの指導に行ける時間が取ればいいのですが。市役所の中でも、いろいろなスポーツや楽器などを大学でやっている職員もおりますので、指導する余裕もないかもしれませんが、そういった指導もしてみたいと考えている職員もいると思います。そういったこともできれば、仕事も元気になるのではないかと思います。

○小林委員

市役所のOBなどは、どうでしょうか。年齢的にだめでしょうか。

○宮川市長

それは問題ないと思います。

○小林委員

市役所のOBには、音楽やスポーツに長けた人が結構いると思いますが。

○宮川市長

そうですね。そういう人達を、部活動サポーターとして発掘し、組織を作っていかなければなりません。先駆けとなる取組なので、まずは、こういった状態を何とかするために、取り組んでいきたいと考えております。また、部活の加入率も62%ぐらいということで、それが上がっていけばいいと考えております。

そのほか、何かございますか。

○堀籠教育長

私も今回の部活動の地域移行に関しては、先ほど話がありましたとおり、国が問題を持って、取り組んでいこうとしておりますので、その国の事業に対して紋別市では、率先して取り組んでいきたいと考えております。

この中で、やはり、一番問題なのは、先ほどから話になっている人の問題や、人も結局お金の問題があり、財政的にお金の措置があるわけではありません。そういった問題は、紋別市が先駆けとなって取り組んでいくことで、こういった制

度にして欲しいなど、国や北海道に提言し、先ほども中体連や各種競技団体の話がありましたが、子どもたちにとって参加しやすい仕組みに変えていけるような提言をしていきたい。初めてやる取組なので、問題も出てくると思いますが、先程言った先駆けとして、問題点も整理し、関係団体に提言しながら、取り組んでいければと考えております。

○宮川市長

わかりました。それでは、以上で地域部活動についての協議を終わります。
その他につきまして、事務局から何かございますか。

○事務局

ありません。

○宮川市長

それでは、これをもちまして総合教育会議を終了させていただきます。どうもご苦勞様でした。

午後 3 時 2 0 分終了